



観客を魅了した田中彬博ギターライブ。会場は立ち見客を含めてぎっしり。



西河克己監督の思い出の詰まった映画記念館が、幻想的な光でライトアップ。



町内のいたる所に展示されていた鉄の彫刻「浮世絵美人」。横から覗き込んだ人も多かったのでは？



来年は今年以上の盛り上がりを目指して、住民が一体となり、力を合わせて頑張りましょう。

今回で13回目となった智頭宿雪まつりが、2月4日(土)午前10時から午後9時まで、智頭宿一円を会場に開催されました。今年は1日限りの開催でしたが、約5,000人が来場し、雪の智頭宿を楽しみました。

石谷家住宅の庭園と西河克己映画記念館がクリエティブディレクター'shibabakaさんの手により光で幻想的にライトアップ。鉄の彫刻「浮世絵美人」が町内7ヶ所に展示されるなど、新たな取り組みもあり、人々の注目を集めていました。諏訪酒造で行われた「杉の雫・吟醸の会」には、「夏子の酒」の作者尾瀬あきらさんを招き、お酒や酒造について楽しく語る会が開催されました。また、地元の人達による屋台や、かずら編み、雪灯籠作りなども好評でした。子ども達には総合案内所前の大きな滑り台が人気の様子で、順番待ちの行列が出来ていました。

智頭の森と村日記 番外編

丹羽 健司

「いくつか何となくでもせん(先)の家が恋しいよねえ」笑顔の中でほろこつと嘆息がこぼれた。

●南三陸町再訪

この冬一番の寒波の1月28日、私と藤田(賢露おやじ)の会は宮城県南三陸町の中瀬仮設住宅にいた。一歩海側に出るとますます高く積み上げられたがれきの山と廃墟が続いていた。復興はそこで足踏みしていた。昨年5月に智頭町から寄贈した1万本の組手(ぐみて)のその後を確かめる旅だった。昨年5月に気仙沼市や登米市の避難所へ寄贈した様子やその顛末は広報ちづつ5〜7月号に概



●焼印

中瀬集落は集落丸ごと津波にのみ込まれた。その時防災センターの建物で最後まで防災無線で避難を呼びかけた遠藤末希さんのエピソードは「天使の声」として教科書に掲載されることになった。その中瀬集落は区長が集落をバラバラにしないためとあって仮設住宅に移転すること

略を報告した。その趣旨は、①緊急的に避難所の被災者プライバシー保護のために間仕切り収納棚として寄贈する。②組手什製のノウハウを伝え産業振興の一助となる。③組手什を使っていたことで木づかい運動を促進することであった。

あの時ノウハウ移転した栗駒木材と登米森林組合は地元の木でそれぞれ5千本を避難所に寄贈した。栗駒木材は仮設店舗列棚支援に取り組み始め、登米森林組合は名取市の図書館の本棚を全て組手什にした。では、智頭杉の組手什はどうなったのだろうか？

を行政と粘り強く交渉した。そして集団移転を実現した初で稀な事例となった。彼らの避難所は私たちが2日目に組手什を持ち込んだ鱒淵小学校だったのだ。集会所で区長夫人に当時の写真をお見せしたら、すぐにその人たちを集めてくれた。待つ間集会所の中をよく見たらそこかしこに組手什が使われている。書棚、食器棚、テレビ台…そして神棚の台にまでなっている。そこに「智頭杉」の大きな焼印。嗚呼、良かった、ありがたい、思わずつぶやいた。

「ばあちゃんたちが次々に集まって来る。来訪の趣旨を伝え、写真やNHKTVで全国放映されたビデオを見せたら、あの時それぞれフラッシュバックしているようだ。一息置いて怖々尋ねた「この組手什はおうちで使われていますか？」使っている使っている、仮設住宅はあてがわれても家具はなんもなし、狭いから棚にしてあり



がたく使わしてもらっているよ」「ほっと胸をなでた、「よかつたら、見せていただけますか？」「じゃあ、ちよつと部屋を片付けて来っから」ばあちゃんたちがそれぞれ散らばった。現地を案内してくれた若者二人と私たちは手分けして家庭訪問。

4畳半と6畳とキッチン、私が訪ねたのは佐藤さん宅、電子レンジや食品の壁面収納棚、居間にはテレビの横でポット台や本棚になったり。ステンレスの棚やプラスチックの下駄箱を指さして、「もう少しあれば、これも作れたのにねえ。けど、みんなも欲しいので分け合ったのよ」「天井まで棚を作るともって収納できるから、部屋が広く使えるんだけどね。」

どの家も同じだった。仏壇の台になったり、端材の組手什まで花台になったり、余すことなく大事に使われていた。ありがたいことに申しわけなきで胸が一杯になった。

●組手什絆プロジェクト

鳥取に帰って話したら学生たちは激しく反応した。仮設住宅や仮設店舗への組手什支援活動(学生組手什絆プロジェクト)が始まった。鳥取に来る新入生や鳥取を出ていく高校生や社会人

に組手什を買っていただき、その売り上げの一部を宮城のNPOに送り現地製作した組手什を仮設住宅などに配布し、そこに学生も組み立てボランティアで行く。この1年受験や就活で思いはあっても震災支援に関われなかった若者たちに智頭杉を通じて絆づくりに参加してもらおう活動だ。

伝えたいことは何万字あっても足りない。3月末で智頭を去る前に、昨年の震災支援とその後、森の健康診断の結果報告、そして木の宿場や聞き書きなど、この2年間の活動報告をしてお礼を述べたい。左記のように町がその場を設定して下さい。詳しくはそこで報告したい。生中継で被災地からの映像とメッセージも届く予定です。是非参加を。

3月15日(木)19:00~

会場: ほんのぼのホール

「負けるな震災、ありがとう
智頭町、お礼と報告の夕べ」
~丹羽健司~

震災支援報告、現地との生中継、森の健康診断結果など、2年間の活動の報告とお礼、そして夢。